



# 南房総市民憲章

黒潮の恵みあふれる 外房の浜辺から  
さざなみに安らぐ 内房のなぎさまで  
母なる照葉樹林に抱かれた野山は  
稔り豊かな南房総 古くは安房の国

恵まれた自然は守りながらも生かすこと  
新しい開拓こそが魅力と活力を生む  
郷土の文化を高めることは私たちの願い  
おだやかな風土が育てた温かい人情は宝

みんなが参加する まちづくり  
郷土の未来に 私たちの志を重ねれば  
住みやすく 地域に根ざした産業も育つ  
南房総の夢は 生きいきとした理想郷

私たちが今 開く 新しい一ページ  
どんな難しいことがあろうと  
ああんが やんだよ やれるとも  
これこそ 房州人の心意気

## 本文の解説

- 1 節 一般的な形式では、前文にあたります。  
南房総とは、海と照葉樹林に象徴されるように、自然の恵みが豊富にあり、温暖で穏やかで住みよい地域を表現し、うたい上げています。
- 2 節 従来の市民憲章の箇条書きにあたる部分で各々が独立しています。
  - 自然は、守るだけでなく壊さない程度に活かすことが大切であることを表現しています。
  - 新たな開拓が必要であり、開拓によって魅力と活力が生まれることを表現しています。
  - 郷土の文化を高める大切さを穏やかに表現しています。
  - 住んでいる人々が人を受け入れるもてなしの心を持っており、房州人の心の豊かさを表現しています。
- 3 節 理想をどのように実現していくか、行政と市民の協働を軸にし、南房総市の将来の姿を描いています。  
市民一人ひとりが、ただ参加すればいいのではなく、どのように協働を進めるかを考え、郷土の将来に、志をもって、住みやすい郷土、地域にあった産業を育てていく必要があります。そして、南房総が、ただの別荘地やリゾート地ではなく、自立した理想郷でなければなりません。そのためには、経済的な後ろ盾が必要である。「生きいきとした理想郷」は、経済活動により栄えた元気な南房総市を意味します。
- 4 節 結びで、市民の意欲、意志を表し、房州人の心意気と決意をうたっています。  
房州人の弱いところを、盛り立てるために、方言をいれて房州人の心意気を示しています。  
「ああんが」は房州人の反骨精神を表現しています。